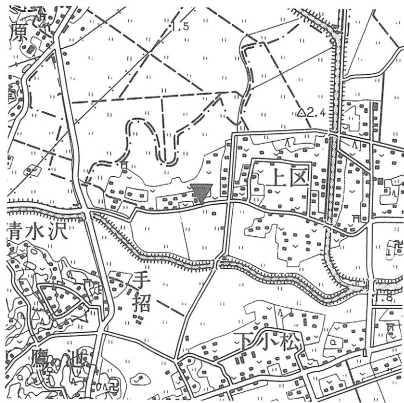


## 宮城・赤井遺跡 あかい

- 1 所在地 宮城県桃生郡矢本町赤井字照井中
- 2 調査期間 二〇〇〇年(平12) 五月～二〇〇一年三月
- 3 発掘機関 矢本町教育委員会
- 4 調査担当者 蝦名博之
- 5 遺跡の種類 城柵・官衙跡
- 6 遺跡の年代 七世紀～九世紀前半
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(松島)

赤井遺跡は、牡鹿柵あるいは牡鹿郡家に推定されている官衙遺跡である。標高二m前後の浜堤上に立地する。奈良時代後半の地方豪族道嶋氏に關係する遺跡として注目されている。

本遺跡の本格的な調査は一九八六年から開始され、東西約一・五km、南北約一kmの範囲から、七世紀から九世紀前半までの官衙に關係する遺構が検出されている。文字資料としては

「舎人」の刻書土器や、牡鹿郡に關係すると思われる「牡舎人」「上郷」「余郷」などの墨書土器が出土している。木簡の出土は今回が初めてである。

木簡は、官衙の中心地区から西に約一〇〇mの地点での下水管理設に伴う立ち会い調査で出土した。幅約三〇cmの東西溝SD八二八堆積土から出土したが、伴出遺物はなく年代は特定できない。

### 8 木簡の釈文・内容

(1) 「□」主諸

・「 海道 二番

(194)×34×5 051

付札木簡と考えられる。表面は墨痕が薄く一字目が判読できない。人名と考えられる。陸奥国「海道」地方を指すものと考えられる。

### 9 關係文献

矢本町教育委員会「赤井遺跡Ⅰ 県道石巻鹿島台大衡線上区改良工事に伴う調査報告」(矢本町文化財調査報告書第一四集 二〇〇一年)

(佐藤敏幸)

